

人生
山あり谷あり

第 78 回「ラジオ体操」

名古屋大学名誉教授 いぐち あきひさ
愛知淑徳大学教授 井口 昭久

私は 2013 年の春から夏にかけて名大病院の最上階に入院していた。食道がんの末期であった。

残された命が短いと知ってから規則正しい生活をするようになっていた。

早朝に目覚めると病室を出て詰め所へ行って体重を測った。体重は減少すると生命の終わりに近づいているような気がしていたから気になっていた。

それから点滴台を引きずってエレベーターに乗り 1 階にある売店に新聞を買いに行った。

世間から置き去りにされた気分になっていた身にとって新聞は世界の窓であった。

早朝のエレベーターでは出勤してくる看護師たちに出会った。彼女たちが外の空気を運んできた。

病室に戻り、窓から外を眺めると鶴舞公園の入り口に萩ノ茶屋が見え、隣の空き地に人影が見えた。公園の桜が終わり木々が新緑になった頃であった。

何気なく眺めていると数名の人たちが集まって体操をしているようだった。

決まって 6 時半からであることから NHK のラジオ体操をしていることがわかった。

私は小学生だった頃の信州を思い出した。

夏休みには村の公民館に集まってラジオ体操をするのが日課であった。

蛍草に赤とんぼが止まっていて、見上げれば中央アルプスに駒ヶ岳がそびえていた。私にもそんな新鮮な朝があったのだ。

成人となって故郷を離れ、入院するまでの日々はラジオ体操とは無縁の世界を生きてきていた。

しかしラジオ体操の歌は忘れずに覚えていた。

「新しい朝が来た。希望の朝が、喜びに胸を開き、大空—」歌の内容とはかけ離れた境遇に置かれた我が身にとって公園で体操をする人たちは別の世界の人たちだった。

私にはもう彼らのような日常が戻ってくることはないと思っていた。

その年の夏の終わりまでラジオ体操をする人たちを眺めて過ごした。

あれから 11 年経った。

私の命は幸運にも長らえて、今では家で毎朝ラジオ体操をやっている。



支部だより 首都圏支部総会

2024 年
7/13(土)

令和 6 年 7 月 13 日の夕方、学士会館にて名古屋大学医学部学友会首都圏支部総会が行われました。まず総会は堀川和裕先生 (S61 年卒) の司会のもとで、真野俊樹先生 (S62 年卒) による支部長挨拶と先日学友会館で行われた評議会の報告が行われました。次に堀川和裕先生 (S61 年卒) による事務局報告、そして田中輝幸先生 (S62 年卒) による監査報告が行われました。総会の後には招待講演が行われました。まずは、名古屋大学大学院医系研究科産婦人科学教授 梶山広明先生より『私の鶴舞考 今昔 ～時報部長の視点を踏まえて～』という演題で名古屋大学医学部が創設する前の鶴舞という地の歴史から最近の名古屋大学医学部の現状についてお話いただきました。次に厚生労働省感染症対策部長 鷲見学先生より『新型コロナを踏まえた今後の医療提供体制 ～感染症医療を中心に～』という演題で現状の日本の医療体制

の課題やコロナ禍を乗り越え更なる高齢化社会となる今後の課題についてお話いただきました。そして懇親会の後閉会となりました。今後多くの先生の参加を目指して次回はオンラインで 2025 年 7 月 12 日に開催予定です。

(文責：阪口 竜佑)

